

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こみち
教育の小径 No.170

2022 December

12月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

出る杭は
打たれる

頭角をあらわす者は人から憎まれ、妨げられたり、差し出がましいふるまいをすれば非難され制裁を受けたりすることをいいます。

感性をはぐくむ教育

- 感性は心の内面に養われます。人として成長するために必要であり、「生きる力」を形成する重要な資質のひとつです。教えても身につきません。
- 日々の教育活動において、子どもの心を揺り動かす学習活動や教材・題材を工夫し、子どもの感動体験を重視します。

「感性」とは何か

「感性」は、美しいもの、優れたもの、心を動かすもの（出来事）などに出会い、そこから生まれる感動によってはぐくまれます。「感動」とは「深く物に感じて、心を動かされること」（『広辞苑』（第六版）です。

かつて、学校教育において「生きる力」の育成が話題になったころ、「生きる力」には、美しいものや自然に感動する心など柔らかな感性を含んでいるとされ、「生きる力」に感性が位置づけられました。感性には次のような資質が含まれます。

- 善い行いに感銘し、間違っただけを憎むといった正義感や公正さを重んじる心
- 生命を大切にし、人権を尊重する心など基本的な倫理観や他人を思いやる心や優しさ
- 相手の立場になって考えたり共感したりする温かい心
- ボランティアなど社会貢献の精神など 感性はそれぞれの人の心にはぐくまれます。みずみずしい感性、豊かな感性などといわれるように、心のなかに醸成されるデリケートな感情です。自らがはぐくむ能動的なものです。言葉で教えても身につきません。

人的、物的な環境のなかではぐくまれますから、子どもの成長に関わる教師やおとなの役割は大きいといえます。

同じ環境のなかで生きていても、対象の見え方や感じ方、受けとめ方は人によって違います。また、対象によって心がどう動いたか。対象が心にどのような影響を与えているかなど、人それぞれです。感性は個別的かつ情緒的にはぐくまれる資質だといえます。

なぜ「感性」が求められるのか

なぜ、学校教育において感性をはぐくむことが求められるのでしょうか。それは社会人として成長するために必要な資質であるからです。

日本や世界には、地球の気候変動の問題をはじめ、貧困や差別、戦争や平和の問題、二酸化炭素の削減などエネルギー問題など、解決すべきさまざまな課題が山積しています。これらの課題を解決するには、個人が努力するだけでなく、地球社会をあげて知恵を創造し、総動員しなければなりません。

そこでは、課題解決の方策を地球的な規模で考える知的な能力とともに、弱い立場の人たちを包み込む抱擁感や優しさ、不正な行為を憎む正義感、互いの生命や人権を尊重し合う心など、

豊かで鋭い感性（人間性）をもっていることが求められます。

「感性」をいかにはぐくむか

感性は知性や理性をはぐくむ基盤となるものだともいわれます。感性は、人格が完成する途上の早い時期に、とりわけ幼児期や小学生期にはぐくむことが求められます。

幼稚園の教育要領には「表現」の項に「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と、感性が創造性を培う基盤として重視されています。

この考え方は小学校教育に引き継がれ、音楽科の教科目標に「音楽に対する感性」をはぐくむことが、図画工作科に「感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度」を養うことが示されています。また、国語科、社会科、音楽科、図画工作科、道徳科などの教科では、子どもの心に響く教材や題材を活用し、一人一人の感性を研ぎすませる場や機会をつくります。

感性をはぐくむには、日々の教育活動において感動体験を重視します。嬉しいときには思い切り喜び、悲しいときには悲しさを互いに受け入れ共感します。教師自身の感性も問われます。

ぼくの家は北のほうにあるよ

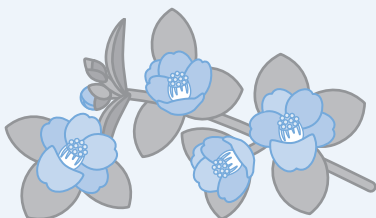
学校の周りの地図を見ていたときです。悟さんは地図を指さして、「ぼくの家は北のほうにあるよ」と言いました。これに対してどのようにリアクションしますか。

授業者は「自分の家の場所をよく言えましたね」と褒めました。褒める内容はほかにもあります。

おとなでも方向を正しく言えないことがあります。掲示してある地図を見て、北のほうにある建物や地名などをつい「上のほう」などと言ってしまいます。上は空ですから、社会的には正しい言い方ではありません。悟さんは「北」という方向を使って説明したことをまず褒めてあげたいです。ただ、地図のなかには上が北の方角ではないものもありますから、まずは地図に示されている方位を確認させます。

ここには大事な改善点があります。それはどこを基点に「北」といったのかということです。学校から見て北の方角にあるものでも、ほかの場所から見ると、西に位置していたり南に見えたりします。方角は基点にした場所によって変わってきます。

ここでは悟さんに方位を使ったことを褒めたあと、「どこの場所から見て、北のほうなの？」と問いかけ、基点にしたものを確かめます。こうした助言によって、方位を使って位置を表すときには基点を明確にするという地図活用の基本を学んでいきます。



新しい教員研修制度

教員免許更新制の廃止に伴い、来年度から、教師としての資質・能力の向上を目指した研修受講履歴を活用した新しい教員研修制度が始まります。実施に向けて、文部科学省は指針とガイドラインを公表しました。

指針では、教師に共通的に求められる資質・能力として「教職に必要な素養」「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を要する子供への対応」「ICTや情報・教育データの利活用」の5つをあげています。これに照らして、教員が「期待される水準の研修を受けているとは到底認められない

場合」には、管理職が職務命令で研修を受講させることも想定されています。

ガイドラインでは、任命権者である教育委員会が記録する研修履歴について、教育委員会の実施する研修や免許法認定講習のほか、学校が組織的に取り組んでいる校内研修や研究、自主的に参加した研修など任命権者が認める研修などをあげています。履歴には、研修名や受講期間、主催者などを記録するとしています。また、特に受講者が自由に視聴できるオンデマンド型による研修の場合は、知識や技能の習得状況を確認するためにテストを実施するとしています。

学校の働き方改革が社会問題になっており、教員の多忙化に配慮した効果的な研修制度が求められます。

北俊夫の「実践と研究」の足あと38

「学校 授業 評価」を考えるシリーズ

岐阜大学に異動してからは、出版する図書が社会科教育以外の分野にも広がっていきました。ここでは、平成14年から4年間に発行した3冊の図書を紹介します。

まず、『子どもを伸ばす基礎・基本の評価』（2002年）です。平成10年版学習指導要領にもとづく評価の考え方を述べたものです。学力の捉え方について整理したあと、目標に準拠した評価（絶対評価）、学校や教師による説明責任の必要性、評価の客観性と妥当性、信頼性の確保などをキーワードに論述しました。学習指導要領の最低基準性が明確にされ、絶対評価に移行されたことから、信頼性のある評価の仕方、評価規準の設定方法に関心が集まりました。

次は、『学校新時代の学力と評価』（2003年）です。ここでは、21世紀の学校の姿や21世紀を生きぬく学力について述べ、個に応じた指導の課題や方策、絶対評価による授業改革の視点について提言しました。

さらに、『新しい学校課題と授業の創造』（2005年）です。本書は、当時提起された地域運営学校のスタートを受けて、学校運営協議会による新しい学校運営、教師の指導の力量を高める自己点検の考え方と実際、「確かな学力」向上のための処方箋について解説したものです。

以上の3冊は、「学校 授業 評価を考えるシリーズ」としてケースに入り、文溪堂から出版されました。当時学校が抱えていた教育課題について研究成果を世に問うことができました。教育研究の充実期だったといえます。

INFORMATION

2023年度 新企画! 小単元ごとに確認できる

ばんげい
きみの手に、みらいの夢を。



授業が終わった後に
手軽に定着を
確認することができます!

- 自動採点&解説付き。
- 登録や設定は不要!!



編集後記

最近ではオンラインによる会議とともに、対面方式の大切さも改めて実感しています。学校においても紙とタブレットをどこでどう使い分けると効果的なのか。徐々に答えがみつかってきているように感じます。(Y記)

ばんげい
きみの手に、みらいの夢を。

企画・編集：ばんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2022年12月1日